

EECでの「WHA工業団地ラヨン」の開発が目的



WHAコーポレーション株式会社(WHAグループ)のジャリーボーン・ジャルコンサクン会長兼グループCEO(中央右側)と、WHAインダストリアル・デベロップメント・ストラボット株式会社(WHA-ID)のデビッド・ナードン工業・国際担当グループ・エグゼクティブ(右から2人目)は、東部経済回廊(EEC)内のラヨン県工業団地ラヨンを開発することで、IRPC株式会社のスクリット・ストラボット社長(中央左側)と合意し、株主間契約を締結しました。

WHA-ID社とIRPC社が株主間契約を締結

世界を席巻している様々な変化の波の中で、昨今の競争は経済、政治、社会の各分野でかつてなく激化し、その形態も複雑で相互に絡み合い国境の枠にとらわれなくなっています。デジタル時代によってもたらされた留まることを知らない変革のため「産業革命」という話題は過去のものとなり「ディスラプション」と呼ばれる技術革新によって、従来技術は影の薄い存在となりました。多くの人はディスラプティブ技術によって世界が変わる可能性があると考えています。例えばAirbnbやGrabTaxiは、サービス産業における変化を反映しています。

EECと競争力



ジャリーボーン・ジャルコンサクン氏 WHAコーポレーション株式会社社長兼グループCEO

より明確に理解するために最先端技術によって工業開発が推進されている国について考えてみましょう。このような変化により、「自給自活者」(prosumer)生産者であり、消費者である人が生まれ、新たなコンセプトを現実のものに変えています。多くの国では電力業界が影響を受けています。なぜなら消費者が自宅の屋根にソーラーパネルを取り付けて発電し電池のように電力を蓄えることも可能になっているからです。電力を大量に蓄えることができればプロダクションを用いた送電網を経由して、近隣の家に電力を販売することもできます。今日、消費者の役割と、生産者の役割は1つに融合させることが可能なのです。

技術的な変化の波が世界中に広がっているため私たちが新たな機会と生じる可能性のある影響の両方を捉えることができるように、偏見のない心で変化を理解する必要があります。このような岐路に置かれていたタイは、変化し続ける世界に適合する方法を知る必要があります。変化について行けなければタイは他国に後れを取ってしまう恐れがあります。そして、「タイの国で核分裂のように急速な変化を起す」ことができないならばタイが「中所得国の罠」を回避し克服するのは困難になります。この状況を十分に認識したタイ政府は、「タイランド4.0」政策に即し、「20カ年国家戦略(2017-2036年)」とタイの経済構造開発のロードマップとなるよう意図された東部経済回廊(EEC)プロジェクトを策定しました。EECプロジェクトは、(1)ターゲット産業(2)インフラストラクチャ(3)テクノロジ(4)企業(5)人的資源の開発の5分野の開発に重点が置かれています。また、同プロジェクトはテクノロジ、人的資源、規制改革、行政サポートに焦点を絞った環境への影響にも配慮する、タイの開発のモデルプロジェクトとしての役割も併せ持っています。

WHAグループがバンナーで新本社ビル「WHAタワー」の起工式を開催



WHAコーポレーション株式会社(WHAグループ)のジャリーボーン・ジャルコンサクン会長兼グループCEO(中央)は、バンナーに建設されるWHAグループの新本社ビルの起工式を執り行いました。この本社ビルはEECの玄関口とも言えるバンナーの新たなランドマークとなる建築物です。WHAタワーには20億バーツの予算が投じられ2020年の完成が見込まれています。コスト効率と環境への優しさを重視し、最先端のテクノロジーが導入されます。WHAタワーは、「活気あふれる究極の仕事場」というコンセプトに基づきSカーブ産業に属する企業、実業家およびWHAの顧客企業の皆様に質の高いサービスを提供します。

WHAインダストリアル・デベロップメント社とIRPC社がEECでの「WHA工業団地ラヨン」の開発で株主間契約を締結

6億5,000万バーツの資本金で近畿中に設立予定の合併企業は共同で経営され、ラヨンの工業用地2、152ライを運営するWHAインダストリアル・デベロップメント社が担当

バンコク、2018年5月17日「タイにおける完全に統合された物流・工業施設ソリューション」のリーダー企業であるWHAグループ傘下のWHAインダストリアル・デベロップメント株式会社(WHA-ID)(旧社名「ヘマラット・ラドアンド・ラヨンド・ストラボット株式会社」)は本日、ラヨン県バンナカ区で「WHA工業団地ラヨン」を開発することとなり、IRPC株式会社との間で株主間契約を締結したことを明らかにしました。

新に設立される合併企業は、WHAインダストリアル・エス・エー・ラヨンド・ストラボット社という名称で、WHA-ID社が株式の60%を所有し、残る40%をIRPC社が所有します。同合併企業は、2018年第3四半期前半までに資本金6億5,000万バーツで設立され、IRPC社から2、152ライの土地を取得します。ラヨンの市街から36キロメートル、ウタパオ空港から50キロメートルという戦略的な立地に恵まれた工業団地は「WHA工業団地ラヨン」と命名される予定です。

政府が推進する東部経済回廊(EEC)政策の一環として、同工業団地は次世代自動車、ロボティクス、航空・物流など、10種類のS型産業のほか、機械組立、食品加工およびその他の裾野産業の投資家をターゲットとします。運営はWHA-ID社が担当するため、30年に及ぶ同社の経験と専門知識や、工学設計、プランニング、環境保護に関する高度な基準が活かされることとなります。WHA-ID社は、マーケティングおよびタイと海外の投資家と人

新本社ビル「WHA TOWER」をバンナーに建設

「活気あふれる究極の仕事場」が2020年に誕生 Sカーブ産業への投資家にオフィススペースを提供

タイにおける物流・工業施設ソリューションのリーダー企業であるWHAコーポレーション株式会社の(WHAグループ)は、EECの表玄関ともいえるバンナー地区に新たな本社ビルを建設することを明らかにしました。20億バーツの予算が投じられる新本社ビルは25階建て、大規模な自社プロジェクトとして最新の国際的な基準に基づいて設計・建設されます。近代的なオフィス構造が採用され柔軟性の高い職場環境が実現します。

WHA TOWERは「The Park Chidlo」などのバンコクの景観を彩る著名なビルの建設プロジェクトに携わり、数々の受賞歴を持つPalmer & Turner(Thai)land社が設計を担当します。WHA TOWERの総床面積は5万3,000㎡を超え、その約3分の1がWHAグループのオフィスとなります。他のエリアは企業やビジネス起業家、特にSカーブ産業に属するWHAの顧客企業の皆様に提供された賃貸用オフィススペースとなります。バンナー・トラッド高速道路7km地点という理想的なロケーションにあり、バンナー・トラッドのWHAロジスティクスセンター、WHAロジスティクスパーク、WHA工業団地も車で短時間で訪れることができます。スワンナプーム空港、メガ・バンナー、セントラル・パーク、様々な住宅開発プロジェクト、学校や大学、多目的ライフスタイル・プロジェクトの「The Forestias」や「The Bangkok Mall」などもほど近いところにあります。

WHAグループは長期的な視野に立って投資を行います。それが弊社の成功のカギの一つとなっています。最先端の機能・設備を備えた新たな本社ビルを建設し、数千人の雇用を生み出すというWHAのコミットメントは、タイの工業部門を前進させるための弊社の戦略が成果を上げていくことの証です。



WHAグループが学童のニーズに対応 健全で力強い地域社会の発展のために

WHAグループの学校貢献年次プログラムが EEC 地域内の農村地域の若者の生活改善に寄与

WHAコーポレーション株式会社は地域社会との間で健全かつ有益な関係を醸成することは最優先事項の一つです。教育は地域住民が条件の良い職を見つけ、将来的に自分なりに社会に貢献できるようにするための知識と技能を身に付ける上で役立つため地域社会の発展における重要な要素です。

WHAグループの学校貢献年次プログラムは弊社が大切に育んできたプロジェクトの一つで従業員、経営陣、および様々な工業団地の入居企業の皆様から全面的な支援を得ています。WHAグループでは近隣の地域社会で暮らす学童のニーズに確実に応えられるよう毎年、新たな学年度が始まる前に、教育関連のプログラムとプロジェクトを支えるための特別な資金を用意しています。

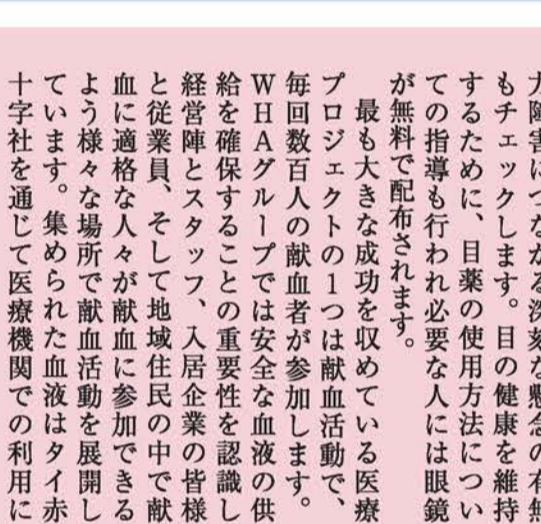
WHAグループの関係者全員の気持ちを高揚させるこのプロジェクトは今年で21年目を迎えます。プロジェクトでは弊社グループの法人マーケティング部が率先してボランティアの協力を得てノート、文房具などの学用品を袋詰めして美的でしつかりした作り型のバックに入れて子供たちに配布します。昨年6月には、EEC地域（チョンブリ県とラヨーン県）にあるイースタン・シーボード工業団地（ラヨーン）、WHAイースタン・シーボード工業団地1、2および4、WHAイースタン工業団地（マブタブット）、WHAチョンブリ工業団地1および2、そしてWHAラヨーン工業団地の周辺に位置する学校69校の生徒、合計1万8,700名が同プロジェクトの恩恵を受けました。



基本的な構成要素の一つです。また、創造性と革新的な思考を常に養うことが出来るように画用紙、クレヨン、色鉛筆などの画材の配布も行っています。

WHAインダストリアル・ディベロップメント株式会社のアピット・ナードンエグゼクティブは、次のように語っています。「学校は、学童の成長にとって非常に重要な役割を果たしています。学校は、学童の成長をサポートするための重要な役割を果たしています。学校は、学童の成長をサポートするための重要な役割を果たしています。」

また、WHAのシャヤ・チャヤンタチャイロート部長は、次のように説明しています。「生徒の多くは経済的に厳しい状況にある家庭の子供たちで、親は効果的に学ぶために必要となる基本的な学用品を子供に買わせることができません。残念ながら、学校にも必要な教員や学用品を確保する資金が十分ありません。1997年に開始された学校貢献年次プログラムを通じて、子供たちがしっかりと学ぶことが出来るよう、弊社は各年度の開始時に、必要な学用品類を提供しています。近隣の地域社会の向上のために、このプロジェクトで学校の生徒と教師を支援できることを、私たちは誇りに思っています。」



WHAグループは、これまで多年にわたりEEC地域にあるWHAの工業団地周辺地域に居住する人々の医療とヘルスケアのニーズに対応するために力を注いできました。

高年齢者、障がい者や恵まれない人々を念頭に置いてWHAグループでは医療サービスがほとんどない地域にまたたく利用できない地域や地区に移動医療チームを派遣しています。これらの場所では近隣に医療機関が皆無である場合や医療支援を受けるための交通手段がない場合がありま

WHAグループの移動医療チームが 地域社会に医療と幸福を提供

移動医療チームには患者の基本的な健康診断を無料で行う医師と看護師が加わります。また医師と看護師は必要に応じて健康や衛生についての助言や基本的な医薬品と医療用品の提供も行います。これは、9か所を超えるWHAの工業団地周辺に住む人々の基本的なニーズに確実に応えるための素晴らしい方法です。

WHAグループが実施しているもう1つの種類の移動医療活動では村々を訪れて住民の視力を検査します。視力がおそらく検査されることがないような移動チームは各地区を回り住民の視力検査を無料で各地区に回り、また、ドライアイ、白内障、緑内障などの一般的な症状のほか失明や視力障害につながる深刻な懸念の有無もチェックします。目の健康を維持するために、目薬の使用方法についての指導も行われ、必要人には眼鏡が無料で配布されます。

最も大きな成功を収めている医療プロジェクトの1つは献血活動で、毎回数百人の献血者が参加します。WHAグループでは安全な血液の供給を確保することの重要性を認識し経営陣とスタッフ、入居企業の皆様と従業員、そして地域住民の中で献血に適切な人々が献血に参加できるよう様々な場所で献血活動を展開しています。集められた血液はタイ赤十字社を通じて医療機関での利用に

供されます。安全な血液を必要に応じて供給できる態勢を整えることにより、多くの人命を救うことができます。

雨季には高齢者の免疫システムが最も脆弱になる恐れがあるためWHAグループの移動予防接種クリニックが高齢者を対象に予防接種を行います。WHAグループでは数百人分のインフルエンザワクチンを購入し地域社会の高齢者に接種します。この予防的な医療サービスは深刻な病気に発展しないかや入院のリスクを低下させることができると高い効果を上げています。これは健康を維持して総合的に幸せな生活を送るためのアドバイス、医師が人々に提供する機会にもなります。今年WHAグループではチョンブリ県のカオ・カンソム地区に住む高齢者400人にインフルエンザワクチン接種を行いました。

WHAコーポレーション株式会社のシャヤ・チャヤンタチャイロート部長は次のように述べています。「健康と幸福はどちらか一方が欠けると実現できないものなので私たちは自分の健康に気を配ると共に、他人の手助けすることのできない隣人たちに手助けする必要があります。私たちは地域社会の一員としてお互いに対して責任を負っているのです。健康であれば力いっばい生きることができ、それによって得られる幸福も大きくなります。弊社は人々の生活をサポート可能な方法で改善するための取り組みの一環として、これらの移動医療チームを組織しています。」

ヘマラート・ランドアンドディベロップメント株式会社が「WHA インダストリアル・ディベロップメント株式会社」に社名変更

8か所の工業団地と4か所のロジスティクスパークもWHAグループのブランド戦略に従い名称を変更

物流・工業施設ソリューションのリーダー企業、WHAコーポレーション株式会社(WHAグループ)は2018年5月11日をもって、子会社のヘマラート・ランドアンドディベロップメント株式会社が社名をWHA インダストリアル・ディベロップメント株式会社(WHAIID)に変更したことを発表しました。

WHAグループのブランド戦略の一環として、同グループの8か所の工業団地と4か所のロジスティクスパークは、以下のとおり名称が変更されます。

WHA インダストリアル・ディベロップメント株式会社は現在、新たなブランド確立プログラムに取り組んでおり、年内いっばいを費やして看板やあらゆる会社資料の変更を行います。

WHAのジャーニーポイント・ジャルコンサクン会長兼グループ最高責任者は次のように述べています。「この名称変更はWHAグループのブランド戦略と弊社のステークホルダーの皆様に対する私たちの広範なコミットメントを反映したものです。この変更により旧ヘマラート・ランドアンドディベロップメント株式会社の構造と事業に影響が及ぶことはありません。同社は今後も変わることなく質の高い工業団地と経験豊かな経営陣によるサービスを提供し続けます。」

これまでの工業団地名	新しい工業団地名
ヘマラート・チョンブリ工業団地 (HCIE)	WHA チョンブリ工業団地 1 (WHA CIE 1)
ヘマラート・チョンブリ工業団地 2 (HCIE 2)	WHA チョンブリ工業団地 2 (WHA CIE 2)
ヘマラート・イースタン・シーボード工業団地 (HESIE)	WHA イースタン・シーボード工業団地 1 (WHA ESIE 1)
ヘマラート・イースタン・シーボード工業団地 2 (HESIE 2)	WHA イースタン・シーボード工業団地 2 (WHA ESIE 2)
ヘマラート・イースタン・シーボード工業団地 4 (HESIE 4)	WHA イースタン・シーボード工業団地 4 (WHA ESIE 4)
ヘマラート・イースタン工業団地 (マブタブット) (HEIE)	WHA イースタン工業団地 (マブタブット) (WHA EIE)
ヘマラート・ラヨーン・インダストリアルランド (HRIL)	WHA ラヨーン・インダストリアルランド (WHA RIL)
ヘマラート・サラブリ・インダストリアルランド (HSIL)	WHA サラブリ・インダストリアルランド (WHA SIL)

注記:イースタン・シーボード工業団地(ラヨーン) (ESIE)は名称に変更がありません。

これまでのロジスティクスパーク名	新しいロジスティクスパーク名
ヘマラート・ロジスティクスパーク 1 - HLP 1	WHA ロジスティクスパーク 1 - WHA LP 1
ヘマラート・ロジスティクスパーク 2 - HLP 2	WHA ロジスティクスパーク 2 - WHA LP 2
ヘマラート・ロジスティクスパーク 3 - HLP 3	WHA ロジスティクスパーク 3 - WHA LP 3
ヘマラート・ロジスティクスパーク 4 - HLP 4	WHA ロジスティクスパーク 4 - WHA LP 4

WHA工業団地で更なる飛躍を目指す企業

AW (THAILAND) CO.,LTD.

自動変速機の製造販売



2020年までに生産能力2倍を実現
「働く人々に愛される会社」も目指す

アイシングループのアイシン・エイ・ダブリュ株式会社（愛知県安城市）は、世界シェアナンバーワンの自動変速機（AT）のメーカー。エイ・ダブリュ・タイ社はそのタイ法人で、2015年にタイに進出。17年6月にチョンブリ県WHAイースタン・シーボード工業団地で生産を開始しました。従業員は現在約430人。昼夜2交代のフル生産で、年間14万台（月産1万2000台）のATを生産し、タイ国内市場などに出荷しています。

米国、中国などに次いでタイ市場を選んだのは、歴史的にも地政学的にも当地がアセアンの中心にあり製造業が盛んなことから、今後も自動車生産の拠点となっていくと判断したからです。これまでアセアン地域には日本から年間60万台ものATを輸出してきました。それらを少しでも現地化することにより、当地での自動車生産の量産化及びコスト削減に貢献できると考えたわけです。

経済成長が続くタイ、アセアンでは日本と同様に多くの車が走行し、人々の暮らしや産業を支えています。ところが、ATの装着率はタイ市場でようやく50%に近づいた程度。1トンピックアップトラックを中心にマニュアル車がまだまだ多くを占めています。近年、小型車のAT装着率が上昇しているように、今後は全車種でそうなっていくものと予想されます。ここにもタイ、アセアン市場を目指す必然があったと言えます。

18,000㎡ある工場では、現在、約半分ほどを使い、生産を行っています。残るスペースについても19年末までに急ピッチで生産ラインを敷設し、稼働させていく予定です。当面は月産2万台を目指し、20年までに年間30万台としていく



「真剣に働く従業員に接し、優しく真面目なタイ人気質に出会った感じがします」と長谷川博幸現社長は印象を語ります。岩川祐一前社長も「繊細で目が良く、いつもと違うと感じたことを素直に伝えてくれるので大変助かります。タイの人は感性が高いとつくづく感じました」と話していました。

従業員たちが快適に仕事に就けるよう、当社ではさまざまな環境管理や安全管理、福利厚生を取り組みをしています。工場内が見えるよう、天井までガラス張りのエントランスホールは、訪問客のほっと感が驚くほど。また、工場棟は空調完備。清潔感あふれる職場環境を創出することで労働意欲も増す一方、見せる・見られるとの意識から緊張感も生まれます。

フォークリフトと人との空間を厳密に区分したのは安全面の配慮から。敷地内にはサッカー場やフィットネスルーム、ATM、社員食堂なども完備して、明るく元気づけられています。「働く人々に愛される会社」家族のような会社を経営理念の第一とする当社ならではの施策と申すことができます。

とはいえ、ここに来るまでには苦勞の連続だったようです。「用地選定には大変も10万㎡以上のまとまった用地を求めていた当社。工場が分散立地されると後々のオペレーションにも支障が生じてしまいます。ところがなかなか適地は見つからず何度も下見の繰り返し。そのような折りに出会ったのが、WHAグループのWHAイースタン・シーボード工業団地のWHAイースタン・シーボード工業団地（元ヘマラット・ランド・アンド・デベロップメント株式会社）の工業団地だったのです。

海抜120メートルは洪水の心配とは無縁です。岩盤まで9メートルと固い地盤は製造業に向いています。加えてタイ最大の深海港レムチャパンにも近く、幅32メートルの幹線道路とも接続するなど抜群の交通アクセス。付近一帯は開発がすすまなかったばかりで、進出計画とのすり合わせが可能だったことも決め手となりました。

「さらに大きかったのが、親身でスピーディーな対応。他社にない安心感を抱きました」と長谷川社長は話します。どんな小さな質問にも適切に答える姿勢にヘマラット社であれば日程を遵守してくれると判断したそうです。本格操業から1年。安心と信頼を支えに、エイ・ダブリュ・タイ社はさらなる飛躍を目指しています。

EEC管理委員会が9か所のWHA工業団地を特別工業ゾーンとして正式に承認

タイにおける物流・工業施設ソリューションのリーダー企業であるWHAコーポレーション株式会社（WHAグループ）は、東部経済回廊（EEC）管理委員会が昨年11月にEEC工業振興ゾーンとして承認したWHAイースタン・シーボード工業団地4（WHA ESIE 4）に加えてさらに8か所のWHA工業団地を同工業振興ゾーンとして正式に承認したことを発表いたします。これまでに承認された9か所のWHA工業団地の総敷地面積は、EEC地域内で約1,666万6,000坪（3万4,434ライ、1ライ＝約484坪）のほりです。

これら9か所のWHA工業団地はEECプロジェクトの対象とされる10種類のSカーブ産業、特に航空と物流、次世代自動車、オートメーションとロボティクス、スマート・エレクトロニクス、バイオ燃料とバイオケミカル、およびデジタルの開発で

EECの承認を受けた WHA工業団地は以下のとおりです。
WHA チョンブリ工業団地1 (WHA CIE 1)
WHA チョンブリ工業団地2 (WHA CIE 2)
イースタン・シーボード工業団地 (ラヨン) (ESIE)
WHA イースタン・シーボード工業団地1 (WHA ESIE 1)
WHA イースタン・シーボード工業団地2 (WHA ESIE 2)
WHA イースタン・シーボード工業団地4 (WHA ESIE 4) - 2017年11月に承認済
WHA イースタン工業団地 (マブタブット) (WHA EIE)
WHA イースタン・シーボード工業団地3 (WHA ESIE 3)
WHA ラヨン36工業団地

有益な役割を果たします。WHAのジャヤーポン・ジャルコンサクン会長兼最高経営責任者は次のように述べています。「政府がEEC政策を開始して以来、WHAグループは同政策を常に全面的に支持してきたため弊社の9か所の工業団地が正式に同政策の一部となったことを、うれしく思います。これにより全関係者とタイの国の利益のために10種類のターゲット産業の開発で積極的な役割を果たすという弊社の変わらぬコミットメントが一層強固なものとなります。」

WHAイースタン・シーボード工業団地2のデビッド・ナードングループ・エグゼクティブは、次のように述べています。「これは熟練労働者がより賃金の高い仕事に就くための素晴らしい機会となります。10種類のターゲット産業が開発されることにより生産性が高まり、タイの産業環境が一段とグローバルになります。」

WHAUP社がベトナムでの水道事業を拡張

新たに設立した子会社を通じてWHA工業団地インダストリアルゾーン・ゲアンの水道事業を運営します

WHAユーティリティーズ・アンド・パワーカー株式会社（WHAUP）はベトナムのゲアン省にあるWHA工業団地インダストリアルゾーンの水道事業に投資して運営するための子会社を設立したことを明らかにしました。同社の事業免許は2017年5月29日まで、49年間有効です。WHAUPのウイサート・チュンワタナCEOが明らかにした同社の継続的な投資計画によると、初期段階はWHA工業団地インダストリアルゾーン・ゲアン、フェーズ1の水道施設の開発で、対象面積は合計498ヘクタール（3,112.5ライ）に上ります。工業用水と廃水処理の需要は工業用水が1日当たり約1万2,000㎡、廃水処

理が9,600㎡と見積もられます。WHAの工業団地における公共サービス、原水、工業用水、廃水処理および電力の大手プロバイダーでタイおよび海外での投資を目指すWHAユーティリティーズ・アンド・パワーカー株式会社（WHAUP）のウイサート・チュンワタナ最高経営責任者はベトナムで水道事業に投資して運営するための新子会社、「WHAUPゲアン株式会社」の設立が同社の取締役会で承認されたことを明らかにしました。同子会社の最初のプロジェクトはベトナムのWHA工業団地インダストリアルゾーン・ゲアンで実施されます。

WHAUP傘下の新子会社「WHAUPゲアン株式会社」は、土地引渡日から2017年5月29日までの49年間にわたって、ベトナムのWHA工業団地インダストリアルゾーン・ゲアンの水道施設サービスに投資して運営する権利を取得することです。WHAコーポレーション株式会社の子会社である「WHA工業団地ゲアン株式会社」との間で共同協定を結びました。これは、WHAUPの長期的かつ戦略的な投資計画の一環として、国際市場、特にCLMV諸国に事業を拡大するための第一歩となります。

WHAグループがイタリアン・エアロスペース・ネットワーク（IAN）と覚書を締結

WHAコーポレーション株式会社とイタリアン・エアロスペース・ネットワーク（IAN）は先日、「教育における航空宇宙分野の協力と工業技術の移転」を促進することで合意したことを明らかにしました。覚書の形式で行われたこの合意により技術開発の総合的な改善に、航空宇宙産業の経験と専門知識が生かされることとなります。

写真は覚書締結式に出席したWHAイースタン・シーボード工業団地2のデビッド・ナードングループ・エグゼクティブ（左から2人目）とWHAコーポレーション株式会社のシヤパス・チャントチャイロト部長（左端）、イタリアン・エアロスペース・ネットワークのリカルド・コリ（Mr. Riccardo Coli）事務局長（中央）、およびBOIパリ事務所のチュウオン・タンクンソンムバティ所長（右から2人目）とスーチトラ・サッサディアパイ投資奨励担当官（右端）。



WHA工業団地ニュースダイジェスト

WHAグループ

WHAグループ会長が2018年度卓越したアセアン女性企業家アワードを受賞



タイにおける物流・工業施設ソリューションのリーダー企業、WHA コーポレーション (WHA グループ) のジャリーボーン・ジャルコンサクン・グループ CEO は先日、アナンタポーン・カンジャンラット社会開発・人間安全保障大臣より2018年度卓越したアセアン女性企業家アワードを受賞されました。授与式にはアセアン女性企業家ネットワーク (AWEN) タイランドのクイン・ナツィカ・アンボンジュン・ワッタナヴェキ理事長が出席されました。ジャリーボーン氏の今回の受賞は、優れた個人的資質、誠実さ、思いやりの心、およびタイのビジネス界における女性のロールモデルとしての能力が評価されたものです。



WHAグループがサタヒップ学校を支援 EECにおける私立学校のロールモデルとして

WHA グループは、チョンブリ県にあるサタヒップ学校のロイヤル・タイ・フリード・キャンパスとサタヒップ海軍基地キャンパスに総額400万バツの寄付を行いました。この寄付金はこれらの教育機関における学習の質を高めるために英語の授業用教室の改装、および質の高い教材と教育用具の購入に用いられます。これは、政府の「タイランド4.0」コンセプトに沿って次世代の労働者を養成して訓練するために、教育省、EEC事務局とタイ王国海軍によって開始された「EECにおける私立学校のロールモデル」プロジェクトの一環です。



Industrial Development

日本の千葉県の投資家がESIEを訪問

潜在的投資家から成る日本の千葉県の代表団がビジネス目的の視察のためにイースタン・シーボード工業団地 (ESIE) を訪れました。千葉県の経済振興課によって率いられた同代表団は、WHA・ID社のラッダ・ロジャナウィライウット副社長 (右端) による歓迎を受けました。



コミュニティ開発大学の学生がESIE (ラヨン) とWHA・ESIEを訪問

コミュニティ開発大学 (チョンブリ県バン・ラムン区) のプラバー・バンニクヤクン理事に率いられた、同大学コミュニティ開発科のコミュニティ管理のための管理者プログラムの参加者が先日、イースタン・シーボード工業団地 (ESIE) を訪れ、WHA-IDのラクボン・カンノイ工業団地運営担当部長による歓迎を受けました。同グループは、東部経済回廊 (EEC) の開発における都市開発戦略と民間部門の役割について実地に見学することを目的として同工業団地を訪れました。



BOIがCLMV諸国の代表団を率いてWHA ESIE1を訪問

投資委員会 (BOI) のタイ海外投資奨励課、タイ国際協力機構 (TICA) と日本国際協力機構 (JICA) は、カンボジア、ラオス、ミャンマーおよびベトナムの代表団を率いてイースタン・シーボード工業団地を訪れました。デビッド・ナードングループ・エグゼクティブによる出迎えを受け、工業団地内を見学しました。この特別な訪問は「AECおよびその後に向けたメコン河流域諸国の投資奨励に関するワークショップ」の一環です。



バヤップ大学の学生がESIEとWHA ESIE1を見学

バヤップ大学の会計・金融および銀行取引学部の学生と教授一行が先日、東部経済回廊 (EEC) を訪問し、WHA コーポレーション株式会社のシャバス・チャンタチャイロート法人マーケティング担当部長による温かい歓迎を受けました。一行はイースタン・シーボード工業団地 (ラヨン) の総合的な見学を行って工業団地の開発と各種サービスを実際に見て回り、海外投資の機会と課題について学びました。



チナワット国際大学経営学部の学生がESIE (ラヨン) を訪問

チナワット国際大学経営学部の4年生一行が先日、ラヨンのイースタン・シーボード工業団地を訪問し、WHA コーポレーション株式会社のシャバス・チャンタチャイロート法人マーケティング担当部長による歓迎を受けました。一行は、東部経済回廊 (EEC) で急成長を続ける経済を支えるワールドクラスのインフラストラクチャーと工業施設をくまなく見学しました。



Industrial Development

WHAグループが航空宇宙業界の経営者向けワークショップを開催

WHA グループとイタリアン・エアロスペース・ネットワーク (IAN) 社は先日航空・宇宙産業への参入を希望するタイ企業の経営幹部を対象としたワークショップを共同で開催しました。このワークショップはWHA グループの工業団地に入居している自動車会社に、欧州の航空宇宙産業の専門家と会い彼らのノウハウと経験から学ぶ機会を提供することを目的としたものです。このワークショップではゲストスピーカーとして、IAN社のAndrea Spirti社長 (左から3人目) と、RINA社のKarolus Karni Lando ビジネス保証部長 (中央) が航空宇宙企業の品質システムと業界の最新の動向について講演を行いました。ワークショップの講演者と参加者はWHA コーポレーション株式会社のシャバス・チャンタチャイロート法人マーケティング担当部長 (右から3人目) による歓迎を受けました。



WHAUP

WHAUPがアナリストとのミーティングで2018年度事業計画の最新情報を発表

WHA ユーティリティーズ・アンド・パワー株式会社 (WHAUP) のウィサー・チュンワタナ最高経営責任者 (右側) とパオピタヤ・スムウラカリン最高財務責任者 (左側) は、2018年後半の事業拡張計画を発表し、WHA イースタン・シーボード NGD2 プロジェクトの天然ガス供給事業で、2018年第4四半期に商業運転の開始が見込まれることを明らかにしました。さらに、ベトナムでの公共インフラ・プロジェクトの開発を続行し、東部経済回廊 (EEC) 政策の進展に即して、WHA グループの工業団地内外における屋上ソーラー発電事業を推進する方針について説明を行いました。



CSR

WHAグループとチュラロンコン大学が共同でレムチャパンの廃水管理研修会を開催

チュラロンコン大学工学部環境エンジニアリング科のチャイアポーン・フラスアット助教授とサルン・テジャセン助教授は、WHA コーポレーション株式会社の子会社であるWHA ユーティリティーズ・アンド・パワー株式会社のワラン・ラオスワン公共サービス・プロジェクト開発担当部長と協力し、レムチャパン区役所の研究室およびエンジニアリングのスタッフを対象に、廃水の管理と処理の原理について説明を行いました。この研修会は、WHA グループの「地球のための清潔な水」(Clean Water for Planet) CSR プロジェクトの一環です。



WHAグループがラヨンのインフルエンザ予防活動を後援

WHA コーポレーション株式会社 (WHA グループ) の子会社であるWHA インダストリアル・ディベロップメント株式会社は先日、タイ工業団地公社 (IEAT) およびプリアック・デーデン病院と協力し、ラヨン県プリアック・デーデン地区の住民を対象としてインフルエンザ予防接種活動を実施しました。この活動は、地域社会の恵まれない人々にインフルエンザ予防接種を無料で受ける機会を提供するもので、WHAのCSR活動の一環です。これにより、インフルエンザの流行を抑え、住民をリスクにさらすインフルエンザの合併症を防ぐことができます。また、予防接種に併せて、雨季の間、健康に過ごすことの重要性について医師が住民たちに説明しました。



カスタマーニュース

トウアゴウセイ社がEECの新工場開所式を開催

高品質のアクリルポリマーと次世代化学品の大手メーカー、トウアゴウセイ (タイランド) 社は先日WHA イースタン・シーボード工業団地2 (WHA ESIE 2) において新工場の開所式を開催しました。タイの東部経済回廊 (EEC) に立地するこの製造拠点により同社は海外事業の発展を促進させアセアン市場での付加価値製品の販売を拡大することが可能になります。



TOTO (タイランド) 社がWHA SILで第3工場の起工式を開催

日本の衛生陶器大手メーカーの子会社であるTOTO (タイランド) 社は先日、10億バツを投じてWHA サラブリ工業団地 (WHA SIL) に建設される第3工場の起工式を開催しました。4万9,000㎡の敷地を占める新工場は、第1、第2工場に隣接しており高度なテクノロジーと最先端のイノベーションを活用してこの地域で需要が高まっているウォッシュレット・ブランドの製品を生産する予定です。

